

令和元年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

氏名	鈴木綾子	活動年数	2年目
活動目標	ぶどう栽培、ワイン醸造の知識や技術の習得、有機農業や自然派ワインについての知識や技術の習得、農地の取得と畑の準備、ワインと食の組み合わせ研究		
活動内容	<p>1年を通してぶどう栽培とワイナリー研修を行った。また、マラニックやワインツーリズム循環バス等各種事業にも参画し、地域おこし活動も行うことができた。</p> <p>その他の活動は次のとおり。6月、NIKI Hillsで行われた「冷涼地における成長期のブドウ畑の管理」に参加し、Churton社(NZ)の講義を受けた。7月には北海道ワインアカデミー公開セミナーに参加、生産国情報、醸造、栽培の基礎の講義を受けた。同月マラニック/さくらんぼフェスティバルで仁木、余市地区のワインをグラスで提供・販売した。同月末は道産ワインの未来を語るセミナーに参加、ナパバレーの事例紹介、北大の研究、気象データの活用等の講演を聴講した。7月から8月にかけて行われたワインツーリズムのバスが運行された際にはリタファームでワイン有料試飲を手伝った。8月初め、道南ワインアカデミーセミナーで、フランスのビオ農学者のぶどう栽培における農学の基礎の講演を聴講した。同月最終週にはワイン研修旅行の為渡仏、ボルドーのレコルデュヴァンでボルドーワインについての座学と主要ワイナリーを巡り、当地のワインと食、ワインツーリズムについての見識を深めることができた。9月初旬には余市ラフェトでは訪問客への配布物の事前準備とテント設営、会場準備と有料試飲を手伝った。10月、北海道ワインアカデミー公開講座でUCDavisの教授のセミナー“The Role of Redox Potential in Wine Fermentations and Aging”を受講した。11月には農村ゼミナール、余市中井農園でぶどう剪定講義を受けた。また同月、道内ワイン用ぶどう生産者の集いで「ワイン用ぶどうの生命力増進法」の講演に参加、ビオダイナミについて学んだ。同月末には渡仏し、モンペリエの農業展を見学、ヨーロッパの最新のぶどう栽培や醸造器具・機械に触れた。併せてラングドック、シャンパーニュ地方のナチュラル、ビオを実践するワイナリー訪問し、ワイン生産者と交流した。12月は余市・仁木新規就農者ビジネスセミナーに参加し体験談、販売戦略、経営、金融支援についての知識を得た。2月には農村ゼミナールで道総研の研究者の方から畑の土壌作りについて学んだ。同月、協力隊同士の勉強会を開き、各自の活動報告や知識の共有を行った。また同月には北海道ワインアカデミー公開講座に参加、独ケラーマイスター、鶴沼ワイナリー、10Rワイナリーの方々の講義を受けた。</p> <p>3月末からは農地が決まったので畑開設に向けて現地で準備(桜桃ハウスの解体、桜桃の伐採)を開始した。</p>		

自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年を通してぶどう栽培から醸造、イベント、出荷等をひとつお見することができた。 ・ 3月に農地の取得が認められ、農地の整備に着手することができた。 <p>●活動初年度からの自己評価及び進捗状況 (同上)</p>
抱負	<p>自園地の整備を進め、初年度のぶどう苗木植樹に着手、苗木を無事畑に活着させたい。並行して2年目に移植する畑の整備を進め、ぶどう畑を整えていきたい。</p>
その他	



研修先にて



さくらんぼフェスワインブースでのお手伝い



各種研修会にて

活動写真